

垣間見たチベット医療

桜井幸子

助産婦(岐阜県)

いま、なぜチベットへ

中華航空の惨事から間もない、昨年5月5日から「チベット曼陀羅の旅」ツアーに参加した。メンバーは、チベット仏教を修業された僧、ネパールに留学されたことのある飛騨丹生川村の千光寺の住職、かつてラサの町に住んでいたという旅行者の方を含め10人。いずれも頼りがいのある若者と、この身を委ねる。

前癌状態で胃を亜全摘してから5年が経過した。そこで、「元気に世界の屋根ヒマラヤ山脈を越える時、わが体に賛歌を捧げよう」「厳しい自然の中で自分を見つめ、ポエムの素材も見つけよう」と、今回のツアーに参加した。

遙か来て

医療のことを書きたいために、寺院巡りのことは短歌で省略する。

遙か来てチベットの寺巡りつつ
 念怒の仏に何ゆえ惹かる
 ヤルツァンポ川ゆく木船空の青
 磨崖仏は火のいろりに在り
 王と妃の愛のかたちを神として
 セラ寺に艶なる姿画かる
 鳥葬をなすとのセラ寺巡りつつ
 われへの挽歌ふと思いたる
 汚れたる衣服を磨りてラサの寺に
 五体投地の老いの目やさし
 ポタラ宮へ登る坂道に物乞いて
 小さく座る童女美し

チベット
 悪魔を調伏するとうみ仏の

黒く塗らるるひとみの円し

飛行場の風に靡かすチベットの

僧掛けくれし祈りの白布

チベットの病院のこと

埃っぽいラサの町の一角に、西藏自治区、蔵^{ツァン}医院があった。わずかな樹木の緑が太陽に輝いているのに救われる思いで門をくぐる。

問診部、取薬処(薬局)が階下にあり、幾たりかが投薬を待っていた。コンクリートの階段を上って、私たちは3階に案内される。治療の現場でも見せていただくのかと思ったところ、その一部屋は寺院さながらの光景。

金泥を塗ったピカピカの仏像3体が、先ず目につく。真赤な桃の絵を背景に、大きい目を見張って微かに笑みを浮かべておられる。バターを固めて作ったという立体的なお供えと造花が飾ってあった。

チベット医学は8世紀か9世紀頃からあったといわれ、中央の仏はチベット医学の考え方を示した医学書『四部医典』の創始者、右は医学論文の研究者、左はチャポリー大学の設立者と説明される。“四部医典”とは、主体は天文学で、鍼灸やヨーガなども含まれており、「病は気から」ということを重視し、自然治癒力とチベット医薬を用いた治療が書かれている貴重な教典である。

部屋には、昔から伝わってきた薬草、乳香、茜草の根、椰子の実、猿のこしかけ、蛇、雲母、ヒマシ油など、動植物、鉱物の秘薬が展示されていた。重々しい黒いビンに入った秘薬をいただく。



何とも言えない味、これぞ秘薬、旅の思い出として舌にこそがす。蔵薬植物(薬草)の図鑑的な掛図、この中にはわが国でも使っているものがある。

仏を中心とした薬草曼陀羅の美しさ。方眼グラフの中に描かれた人体解剖掛図、四部医典の一部は金泥で書かれているものもあった。薬づけの現代医療が果して良いものなのか。しかし、チベット医療にも最近では西洋の薬や鍼灸、漢方も使用されるようになったとのこと。

治療室は針治療の最中。たくさんの電気針治療器具、赤外線らしきものも置いてある。

身分や名前を言おうと思ひ、鍼灸師に片言の英語で話しかけようとしたが通じない。「私は看護婦であり、保健婦であり、助産婦である」と書くと、うん、うんと頷き、笑顔で迎え入れてくれた。患者は臀部をまる出しにされ、腰の辺りに針を刺されているので「神経痛?」と書くと、「いや」と首を横に振る。そして「座」と書いたので、すかさず「座骨神経痛」と書くと、「そうだ」と首を縦に頷く。毎日通院していて、1か月で全治するという。最も“ハイカラな”電気針治療なのだ。

丸薬を買うー成都市

四川省中医薬研究院旅遊保健部に案内された。問診部という部屋に入り、手掌で病気を診てもらふ。通訳は言う。「あなたは胃腸が悪い」なるほど私は胃も腸も手術している。よく当たるな……。「糖尿病の気もある」うっそお〜。私は成人病についてはAクラスなのに……。しかし、しかし、このことも謙虚に受け止め、将来ならないように注意しよう。

「化滯定痛丹6瓶」と記された処方箋を貰ひ、薬剤師らしい女性に渡すと、ポン、ポンと縦10cm、直径6cmぐらいのプラスチック容器が目の前に。「ヒャー、こんなにたくさん荷物になるう」と思わず大きい声を出す。1瓶日本円で5千円、計3万円。1瓶だけと言ったら、2瓶1クールだからと。仕方なく2瓶買う。

帰ってから、ゆっくり金ピカのラベルを読む。成分は記されていない。これは不安なことである。「主治：急慢性胃炎、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、腸痙攣、及び、各種気滞食積之腹脹、腹痛、嘔逆、等」「用途：毎次一内蓋、毎日3次、食后服用」とある。昨年11月、友人が高山へ訪れた時、胃腸をこわしたので、温泉宿まで持参して服用してもらったところ、よく効いたようである。1万円はもったいないから、上記のような症状があった時、試しに服用してみようとは思っている。

サムイエ寺の秘薬

秘境、サムイエの寺へ寄進したこともあり、白布に包まれた秘薬をうやうやしく受ける。成分は、高僧のお舍利様(喉の骨)、髪、その他を祈りつつ錬金術のように幾年も練った黒い顆粒状のもの。めったに手に入らない由。医療ゼロに等しいサムイエでは、こうした秘薬が活用されているのであろう。悪友曰く、「あなたのような無信心なものには効くわけがない。しかし今際の時、飲めば蘇るかも」と。

二度と訪れることがないであろうチベット高原、ヒマラヤ山脈の雄大さ。青空トイレさえも思い出の一コマとして心に思い返している。